

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101436		
法人名	特定非営利活動法人 さわやか福祉ネットワークぎふ		
事業所名	グループホーム柳ヶ瀬		
所在地	岐阜市金町4丁目28番地		
自己評価作成日	平成23年10月12日	評価結果市町村受理日	平成23年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170101436&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 んふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の方との交流も安定してきたので校下を視野に入れた交流の幅を広げていきたいです。全面介助の方が2人見えますが、離床を心懸けて皆の輪の中で共に生活してその人らしさを大切に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昭和時代の繁栄を今に残した元美容院を改装したホームは、人と人の触れ合いが多いにぎやかな市街地にあり、地域の人々と親しく交流しながら、利用者の穏かな生活を支えている。利用者の高齢化が進むなかで、安心して最期を迎えられるように、医療・看護・関係者と24時間の連携体制を整え、終末期に備えている。全面介助が必要になっても、その人らしさを大切に、一人ひとりの心に寄り添いながら、「人間として生きることのできる」ケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で確認しあいます。お揃いのエプロンをしているので地域の方にも知ってもらい、ホームの一員として恥じない行動を心懸けています。	ホームの理念「出会い・ふれあい・学び合い」を、ミーティングで確認し、共有している。住み慣れた地域の人々と日々ふれあい、交流しながら、その人らしさを大切にしたいケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ごみ収集場のネット及び清掃おむつ処理のための古紙をもらいます。回覧板を向かいに利用者に届けてもらいます。	毎月、自治会の一員として定例の会合に出席している。災害時、利用者にリボンをつける事で、見守りの協力を依頼している。回覧板を活用し、ゴミ収集場の掃除や地域の防災訓練、行事等に参加し、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人から「こういう人がいる」と相談を持ちかけられたりします。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の人に参加してもらい校下の情報を得たり処遇困難な事例などを共に考えています。	2ヶ月に1回、運営推進委員会を開催し、家族代表・地域包括支援センター・民生委員・地域連合会長・行政関係者の出席を得ている。活動報告や利用者の状況・地域の独居高齢者の様子や地域校下の年齢構成の情報を得ている。困難事例を検討し、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加。利用者状況の報告。	ホームの実情報告や火災時の通報や建物の耐震について、幅広く相談できる関係を築いている。生活保護者の受け入れおよび支援については、日ごろから連絡協力体制はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ドアの施錠はしていません。玄関横の談話室にスタッフがいます。	身体拘束や虐待の内部研修を行い、職員は内容を把握し理解して、拘束のないケアを実践している。玄関は、施錠せず、されげなく見守り、同行して、利用者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に夜間帯においてこのようなことが無い、繰り返し確認しあいます。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護1名、成年後見人1名が利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手のペースに合わせゆっくり時間をかけて納得のいくまで説明をさせてもらいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加、年2回の家族会、アンケートの実施、毎月送付する金銭出納管理表への近況報告等を行います。	家族会を開催したり、運営推進員会議に参加してもらっている。家族の訪問時に、意見や要望を聞く機会を設けている。また、月ごとの近況報告に加え、家族アンケートで、意見・要望を聞いている。「外出の機会を増して」との要望があり、改善に繋げている。	前回の課題として努力されているが、本人・家族の意見、要望等の把握には、さり気なく問いかけ、外部者に表せるように、さらなる取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回一人ひとりが代表と話合う機会を設けています。	職員会議の意見から、居室内への手すり・エアタオルの取り付け、鍵の付いたキャビネットの購入など、利用者の利便性や職員がケアしやすいよう、運営に反映させている。年に2回、代表理事と話し合う機会があり、職員一人ひとりが、意見や提案を出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な設備は整えていきます。毎年昇給も行われます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修は受けれる配慮をしています。研修案内を開示しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、他グループホーム代表と意見交換をしています。相互訪問も検討しています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との面談、情報収集に努め本人のニーズに合った支援が出来るように取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談にて要望等理解してホームとしてどのように対応していくか検討しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ることはすぐに対応して、出来ないこと、難しいことは地域包括センターに相談して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が今まで培ってきたことから学ぶこともありお互い支え合う関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や運営推進会議に参加してもらう事や近況報告やホームの便りで情報を共有して家族に協力を得たいです。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の職場の方の来訪や、昔から利用している美容院に行かれる方もいて継続していきたいと考えています。	近隣の友人や元職場の同僚が気軽に訪問したり、馴染みの公園や神社へ参拝に出かけている。喫茶店や映画館、百貨店等、馴染みの場所を利用し、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションにおいてもお互い支え合う場面がよくあります。相互交流の見守り、調整の支援を続けていきたいと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	10年間入所されたさんの家族から当ホームに入所したいと希望されている相談がありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を傾聴して声かけをして受容的対応に心懸けています。	介護現場から、その人の思いやどう暮らしたいかを、言葉や表情から把握し、職員間で共有してケアに努めている。特に傾聴を大切にし、本人の視点に立って話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じて利用者に尋ねてニーズの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声かけを多くしてコミュニケーションを取り様子を見守ります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合いケアプランに反映しています。	月1回のミーティングで、日々の個人記録、家族の要望や意向を職員全員で話し合い、モニタリングを繰り返しながら介護計画を作成している。急変時や体調に変化のある時は、かかりつけ医の意見や家族の思いを取り入れて見直し、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の感じたこと等を個人記録に記入して、またミーティング等で話し合います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望を取り入れる様に配慮しています。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺を散歩しながら地域の人とあいさつを交わし交流を心懸けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医と24時間対応の契約を結び、適切に医療が受けられる体制にしています。	利用者全員がホームの協力医をかかりつけ医としており、月2回の訪問診察と訪問看護を利用し、24時間対応の連携を取り、適切な医療と安心した健康管理に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護を受け緊急時の対応等、適切に介助できるように指導してもらいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	保険証や服薬など入院時に必要なものを連絡を取り合い対応しています。緊急時は家族と相談して今後の方針を検討していきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて基本方針を文章で説明します。最終的には医療機関と家族とホームの三者で方針を共有します。	ホームで終末期を迎え看取りを行う基本方針が出来ている。6名の看取りをし、現在も2名の重度化と終末期の利用者のケアをしている。生の終末の時には、家族や管理者がホームに泊まり、協力体制をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてミーティング時に話し合いをしています。マニュアルの確認を行います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。今回は夜間を想定した救出訓練を行いました。	計画的に避難訓練を行っている。2階にいる利用者の避難方法は、非常口から隣地への避難経路を確保し、地域の人と共に救出訓練を行っている。玄関に災害時持ち出し袋や手づくりの防災頭巾が設置してある。地域に利用者の見守りも依頼し、協力体制が出来ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の利用者に聞こえないように小声で話すなどの配慮をしています。	職員と利用者は、深い信頼関係で結ばれており、言葉の内容は分かりやすく、あからさまな態度をとらない対応をしている。年長者として敬い、尊厳やプライバシーを大事にする対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対話を大切にして傾聴し、話しやすい雰囲気づくりに気を付けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースに合わせて受容し、1日の生活を大切に過ごしてもらえるように取り組みます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣服を利用者と決めます。また日曜日は爪切りや鏡を諸所に設置しておしゃれができる環境づくりをします。自ら進んで鏡に向かう方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを探し一緒に準備、後片付けをしています。	食材は、利用者と一緒買い物したり、市場へ直接仕入れに行くこともある。利用者の状態に合わせて、とろみの加工もしている。副食も最低5種以上を用意して、豊かな楽しい食事を提供している。下膳や食卓拭きなどは、できる利用者に協力してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と15時のお茶休憩の時に水分補給します。トロミ食の提供など利用者に合わせ、栄養のバランスを考えて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後毎回うがいをします。夕食後は歯磨きを行います。トロミ食の人も洗浄を介助しています。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人に合った支援を心懸けています。	利用者の排泄パターンに合わせて、トイレ誘導や声かけを行い、トイレでの排泄を支援している。重度の人には、夜間のみ、ポータブルトイレを利用し、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩を取り入れ、確認表でスタッフ同士の情報確認をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予定以外で希望される人も対応しています。入浴困難な人にはシャワー浴や足浴をしています。	隔日の入浴支援を行っているが、利用者の体調や希望に合わせ対応している。重度化の人には、職員は2人で支援し、ゆったりと湯船につかる満足感を感じてもらっている。入浴剤に木酢液を使用して、湯ざめ防止やかぜ対策を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力が低下している人には入浴を考慮しています。午後から1時間休息を取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりファイルを作成して服薬管理を行います。服薬時には飲んだことを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでもらう、食事の準備、後片付け、さや取り等役割を持たせています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日いきます。手をつなぎ体力に合わせたコースを本人と決めています。花見等季節の行事にも参加を促します。	日常的に、近くの公園や神社へ、手をつなぎ利用者同士で支え合い、散歩に出かけている。近所の八百屋や百貨店への買い物や外食等に同行支援を行っている。家族の協力を得ながら、季節の花見やイチゴ狩りにも出かけ、生活に潤いを持たせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は自分で管理して、出来ない方も外出した時にお金を渡し支払いをしてもらいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月金銭管理出納に近況報告をして、また家族の方宛にはがきを用意して書いてもらうこともあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、トイレ等出来るだけ季節の生け花を用意しています。	リビングには、ゆったりとしたソファが置かれ、暮らし振りや外出時に撮った記念の写真が掲示されている。玄関にボランティアによる生け花が飾られ、飾り棚には一輪差しに季節の花がさりげなく置かれ、利用者の心を癒している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に仲良くしてもらえるように椅子を用意しています。談話室では孤立することがないように席位置を考慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から大切にしている物や本人手作りの陶芸作品などを飾っています。	居室の間取りや内装は、それぞれであるが、介護用のベッドや整理たんすは使いやすいように工夫して配置してある。家族の写真や、好みの作品を飾り、自分の部屋が認識できる空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除を手伝ってもらったり洗濯物たたみや食器拭き食材の下ごしらえなどそれぞれに合わせて役割分担をしています。		